

地域おこし協力隊 通信 VOL.68

お問い合わせ先
 (観光振興) 企画政策課 企画政策グループ
 電話 5-1114 告知端末機 5-8814
 (集落支援) 地域おこし協力隊問寒別事務所「ほっと」
 電話・告知端末機 9-7367

観光振興担当 貞廣拓哉隊員



皆さんこんにちは。今夏も新型コロナウイルス感染症の影響でイベントが行なわれないため、なかなか皆さんとお会いする機会がありませんが、元気に活動しています。

少し前の話になりますが、昨年冬から下沼のパンケ沼園地の改修工事が環境省によって行なわれ、新たな展望デッキと木道が完成しました。天気の良い日には展望デッキからサロベツ原野最大の沼であるパンケ沼（面積約3.5km²）と利尻山を見ることができます。木道は段差の無いバリアフリー仕様になっているので、足腰の悪い方や車椅子の方でも安心して散策ができます。

また、サロベツ原野では6月中旬から7月上旬にかけ、原野一面に広がる緑の絨毯、青い空を鏡のように映す長沼、そして山吹色のエゾカンゾウと青紫色のカキツバタが咲きます。カラフルな色で埋め尽くされた原野はとても見ごたえがありました。観光客も少しずつ戻りつつあり、幌延町を気に入ってくださる方が増えるように、引き続き魅力の発信に努めます。



新設されたパンケ沼の展望台デッキ



幌延ビジターセンター木道から見えるサロベツ原野と長沼

集落支援担当 中井正幸隊員



北海道も短い夏を迎えています、皆さんいかががお過ごしですか。

この季節、皆さんの心配なことの1つに台風があるのではないのでしょうか？一昔前なら「北海道に台風は来ない」と言われていましたが、近年は台風による甚大な被害が出ています。今回はこの季節に思い出すお話をします。

栃木県日光市の地域おこし協力隊に着任して2回目の夏を迎えた時のこと。家で夕食を食べ終わったころ、雨脚が急激に強くなるのを感じました。あっという間に1時間最大雨量が57ミリまで達し、川の水が氾濫。家屋5戸が全壊、車は流され、他地域と結ぶ唯一の道路は分断されました。住民は一時孤立し、自衛隊が救助に来ました。

私は人口約300人が暮らす山間の小さな集落にあり、その公民館が勤務先でした。公民館は避難所になり、一週間以上避難生活が続きました。私も避難者のお手伝いに努めました。この時、被害の少ない地区にも避難勧告が発令されていましたが「まだ大丈夫だから避難しない」という方が多数おり、説得に回った記憶があります。

話は現在に戻りますが、5月20日から避難勧告が廃止されました。従来は警戒レベルが5段階あるうち、レベル4に「避難指示」と「避難勧告」があったため、避難開始のタイミングが判断できず、逃げ遅れてしまうケースが多発していたことから、今回の変更に至ったようです。他にも避難情報の呼称に変更がありました。

万が一災害が発生し、避難所生活を余儀なくされた時、皆さんの準備は万全でしょうか。新型コロナウイルス感染症対策もありますので、今一度確認して、いざという時のために備えてみてはいかがでしょうか。

